

大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA)

創設事業(大学スポーツ振興の推進)

成 果 報 告 書

[委託期間：平成30年10月4日～平成31年3月29日]

平成31年3月

武庫川女子大学

## 1 事業概要

- (1) 委託事業名：大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版 NCAA）創設事業（大学スポーツ振興の推進）
- (2) 委託期間：平成 30 年 10 月 4 日～平成 31 年 3 月 29 日
- (3) 受託機関：武庫川女子大学

## 2 実施内容

### (1) スポーツ分野の統括業務の実施状況について

#### ①平成 29 年 2 月 1 日、学長直下にスポーツセンター創設

スポーツセンター長（特任教員）、ディレクター1名（専任教員）、副ディレクター5名（専任教員）、スポーツ・アドミニストレーター（以下、「SA」という）2名（専任職員、嘱託職員）を配置。

#### ②平成 29 年度：大学スポーツ振興事業にむけての基礎体制の構築

- ・健康・スポーツ科学科内「クラブ強化対策委員会」が行ってきた強化支援事業の業務把握。
- ・健康・スポーツ科学科からスポーツセンターへ、クラブ強化関係予算の移管手続き。学生部および健康・スポーツ科学部事務室が担ってきたスポーツ奨学制度運用に関する業務把握。
- ・学生部学生課が担ってきたプロコーチの採用・評価および活動経費管理に関する業務把握。
- ・スポーツクラブ武庫女が行ってきた地域貢献事業の業務把握。
- ・スポーツセンターでは、ホームゲーム開催、スポーツ新聞発刊、ホームページによる情報発信、スポーツ奨学生への学修支援方法の検討、アスリートアワード表彰、大学スポーツ協賛寄付金制度創設の企画立案および実施。

#### ③平成 30 年度：大学スポーツ振興事業に関する業務移管完成

大学スポーツ振興事業に関わる業務をスポーツセンターが一元的に管理する。

### (2) 大学スポーツ・アドミニストレーターの配置の状況について

平成 30 年度、学生部学生課の A、B、C、D 4 名を SA として、スポーツセンターに配置した。本学では SA が備えるべき 6 つの専門性をつぎのとおり挙げる。

- ① 外部機関（自治体、地域団体など）との関係構築・調整
- ② 企画・実行に伴う学内調整・折衝
- ③ 大学スポーツ施設・設備等の管理・整備
- ④ 大学スポーツ振興にむけた企画立案

⑤ 外部資金調達方法の検討

⑥ 法令、学内諸規則等に則った適切な実務処理

これら6つの専門性の中から、4名のSAがこれまでの職務経験や専門分野などに応じて、役割を分担することで、スポーツセンターとしての成果を最大化させる体制をとっている。

主な担当は以下のとおりである。

A：西宮市産業文化局文化スポーツ部長の経験を活かし、「①外部機関（自治体、地域団体など）との関係構築・調整」「④大学スポーツ振興にむけた企画立案」を主に担当する。

B：学生部学生課長として、「②企画・実行に伴う学内調整・折衝」「⑥法令、学内規則等に則った適切な実務処理」の管理を主に担当する。

C：学生部学生課員として学内運動部支援を担当していた経験を活かし「④大学スポーツ振興にむけた企画立案」「⑤外部資金調達方法の検討」「⑥法令、学内規則等に則った適切な法務処理」を主に担当する。

D：奨学金制度を担当していた経験を活かし「③大学スポーツ施設・設備等の管理・整備」「⑤外部資金調達方法の検討」「⑥法令、学内規則等に則った適切な会計処理」を主に担当する。

### (3) 「学生アスリートアワード表彰制度」の充実

2018年10月、昨年度に創設した学生アスリートアワード表彰基準を見直し、変更を行った。アワードの価値をより高めることと、既存の褒賞制度（「公江特待生」「大河原学院長賞」「学長賞」）と接続した一体的な表彰制度とすることを目的とした。次表のように、上級学年への表彰を段階的に減少させるとともに、下級学年およびチームアワードの表彰件数を増やすことにより、エクセレントアワードは下級学年から上級学年への傾斜配分としたピラミッド型とした。

2018年11月、関係諸団体に「授与要項・申請様式」を送付し、同年12月12日、提出の受付を締め切った。2019年1月、被表彰候補者について選考を行い、受賞者が決定され、同年3月13日（水）に表彰式を実施した（写真1・2）。

表彰者には、表彰状および記念品（JIB製ポーチ）を贈呈し、表彰を行い、文武両道を実践する学生の功績を讃えた（写真3・4）

学生アスリートアワード表彰基準の具体的な変更内容

	平成 29 年度		平成 30 年度(※本事業)
1 MVP	大学 4 年、短期大学部 2 年 / GPA1 位	⇒	(昨年度より変更なし)
2 Excellent	大学 4 年、短期大学部 2 年 / GPA2 位	⇒	廃止
	大学 1～3 年、短期大学部 1 年 / GPA 上位 2 位	⇒	大学 1 年 / GPA 上位 4 名 大学 2 年 / GPA 上位 3 名 大学 3 年 / GPA 上位 2 名 短期大学部 1 年 / GPA 上位 2 名
3 Team	団体平均 GPA / 1 位	⇒	団体平均 GPA / 1～3 位
4 Best support	GPA 上位 2 位	⇒	GPA 上位 1 位

表彰式当日の様子と表彰状・記念品



写真 1 アスリートアワード表彰式



写真 2 表彰状授与の様子



写真 3 アスリートアワード表彰状



写真 4 アスリートアワード記念品

(4) 学生アスリートへの自習支援制度の充実

学生アスリートの学習時間を確保させ、競技活動と学業を両立させるため、2018年11月、前期成績確定後、スポーツ奨学生（76名）の中から、次の条件に該当する学生を抽出した。

- ・ 2018年度前期 GPA2.0 未満
- ・ 2018年度前期累積 GPA2.0 未満

同年11月21日、対象学生（5名）に対し、学修支援ガイダンスを実施した。同年12月3日から2019年1月下旬の定期試験前までの期間、1週当たり2コマの自習時間を設定させ、学習を共に行うバディー（同級生もしくは先輩）を確保させた。スポーツセンターでは、各対象学生が立てた自習計画をもとに、自習室の予約を行い、自習時間を監督する大学院生チューターを選出して、配置した。

自習支援実施後の2019年3月、対象学生の後期 GPA および累積 GPA を確認した結果、「スポーツ活動」「学業成績」「生活態度」の3つの観点から評価するスポーツ奨学生適格認定において、2019年度は学業成績の項目で累積 GPA2.0 以下の「警告」対象となる学生数がゼロとなり、当事業の目的とする競技活動と学業との両立を達成した。

対象学生へ学習支援の成果と課題に対する「ヒアリング」を実施した結果、成果としては、

- ① 学習支援によって学習時間を確保することができた
- ② バディー制度によって、学習内容について、わからない箇所を相談することができた
- ③ 大学における学習の仕方そのものが理解できた
- ④ 次年度以降も GPA2.0 を絶対に超えるように準備しようと思ったなどの感想を得ることができた。

一方、課題としては、

- ① 自習時間を変更しなければならない時に、一緒に自習してくれるバディーを確保できなかった
  - ② 大学院生のチューターに学習内容を質問しても良いということがわかっていなくて、相談できなかった
- などの感想があり、今後の自習支援の改善に役立てたい。

(5) 長期遠征・長期欠席する学生アスリートへの学修支援方法の確立

将来的に国際大会や海外遠征等により長期欠席をする学生アスリートが発生した場合に備え、授業の担当教員が海外にいる学生に対してネットを

通じて課題を提示し、学生はネットを通じて担当教員に課題を提出することができるネットを活用した双方向型の学習支援方法を確立することを目的とする。

2018年10月、海外レンタル用のiPadおよびWi-Fiルーターの見積をとるとともに、海外研修へ参加する対象学生を検討した。その結果、2019年2月にアメリカへ海外研修を実施する教員・学生に協力依頼することとなった。同年11月、iPad8台を業者からレンタルし、対象学生が受講する講義形式科目と演習形式科目を選定した。2019年1月、授業撮影および課題の作成に協力する教員にコンテンツ提供を依頼した。同年2月9日～20日の期間、アメリカへ海外研修のために渡航する学生をモニターにし、授業内容の映像および課題を渡航先で確認し、課題に取り組んだ後に渡航先から日本にいる担当教員に対して課題を提出するまでをシミュレーションした。シミュレーション実施後に、課題を作成した教員に課題の評価および1回分の授業出席相当と評価できるかどうかの確認を行なった。また、モニター学生から問題点等のヒアリングを行った。さらに、次年度以降、実際に支援対象となる学生が提出すべき様式を作成した。

このことにより、海外での長期遠征や長期入院などにより授業に出席できない学生アスリートへの学習支援方法の選択肢が増え、授業に出席できないことによるハンディキャップを少なからず補うことができるようになった。



#### (6) LAVYS Nation プロジェクトの実施

武庫川女子大学には運動系クラブおよび同好会が33団体あり、これらのクラブおよび同好会（総称して、LAVYS）を応援する「会員（学生、保護者、教職員、卒業生、地域住民）」ならびに「加盟店（大学周辺の店舗など）」で構成する会員組織として「LAVYS Nation」を結成した。この「LAVYS Nation」は、「会員」「加盟店」「学生アスリート」の三者間において、相互に利益享受する好循環を生み出し、LAVYS への応援を通じて西宮・鳴尾地域の活性化を図るスポーツコミュニティーである。

当プロジェクトを実施するにあたり、LAVYS Nation 担当者として、2018年10月から2019年1月末まで非常勤職員を、2019年2月から同年3月まで学生アルバイトを配置した。当該担当者は、会員および加盟店を募集する際の資料や加盟店シール、入会特典の応援Tシャツの作成を行い、その後は、試合会場などや大学周辺の近隣店舗に出向き、会員サポーターや加盟店の募集活動に当たった。また、スポーツセンターホームページには、LAVYS Nation 会員ページを設けているが、会員サポーターや加盟店の募集活動を進めながら、アクセス分析・集計を実施した。

まずは加盟店募集を先行して、同年11月、大学周辺店舗の予備調査を実施した上で、スポーツビジネス演習を履修する健康・スポーツ科学部4年生とともに、各店舗を訪問し、当プロジェクトの趣旨や内容を説明し、「加盟店」加入への勧誘を行った。その結果、2019年3月29日現在、24店舗が加盟している。

さらに、2018年11月19日（月）関西大学とのバスケットボール親善試合、12月1日（土）バトン・チアリーディング部の定期演技発表会、12月2日（日）新体操部の演技発表会、12月15日（土）ダンス部の定期公演会において、会員募集ブースを設置し、会員募集を実施した。

#### 会員募集ブースでの様子



12月～3月、加盟店募集（西宮市、大型商業施設を中心に訪問）

1月～3月、次年度の会費徴収について検討を行った。

2月～3月、学生約250名、教職員約150名のモニター会員に、会員ページの閲覧、加盟店の利用を行ってもらい、スポーツ情報発信を発信するための会員ページの利便性や加盟店を利用することによるメリットを確認してもらった。また、リーフレット

5,000部を在学生中心に、加盟店MAP 500部を加盟店に配付した(写真1・2および写真3・4参照)。

### LAVYS Nation リーフレット



写真1 リーフレット(表)



写真2 リーフレット(裏)

### LAVYS Nation 加盟店 MAP



写真3 加盟店MAP(表)



写真4 加盟店MAP(裏)

## (7) キッズスポーツパーク武庫女プロジェクトの実施

### ① イベント参加者の申込状況

3地区体育館(塩瀬、中央分館、北夙川)で計画し、参加者を募集したが、塩瀬体育館の参加申込がなかった。その他の1館も定員(20名)割れの状況であるが、事業開催には支障ない人数である。

また、対象年齢を4年生~6年生としていたが、高学年になると塾通いなど多忙になるため、対象を3年生以上に改めた。さらに、2年生の参加希望が多かったことから、開講式のみ体験参加として受け入れること



とした。

塩瀬体育館の参加申込がなかった理由については、

- ① 事業への参加機会の南北格差に配慮して、市北部地区にある塩瀬体育館での開催を計画したが、南部市街地と比べて人口が少ないこと
- ② 体育館へのアクセスが保護者の送迎に頼らざるを得ない地域であったこと

が主な原因であると考えます。

その後の対応として、

- ① 2月16日に大学で開催する多種目体験日については、当日限りの参加者枠（20名程度）を設けること
- ② 開催地である大学から近い鳴尾小学校の生徒を招くこととした。

参加申込状況（11月25日現在）

区分	参加申込人数					
	合計	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
中央体育館分館	39	15	10	3	2	9
（内訳・男子）	12	4	3	2	2	1
（内訳・女子）	27	11	7	1	0	8
北夙川体育館	10	0	1	6	1	2
（内訳・男子）	4	0	1	2	1	0
（内訳・女子）	6	0	0	4	0	2
塩瀬体育館	0	0	0	0	0	0

※中央体育館分館の2年生は、開講式のみ体験参加

## ② 開講式（11月25日）の実施状況

目連スポーツセンター長の挨拶により、定時に開講。

参加児童40人を4グループに分け、それぞれにコンディショニング研究部の学生5人を指導者として配置。アスレチックトレーナーである健康・スポーツ科学部の安田講師の指導により、参加者はタオルを使った足指トレーニング、リズムウォーキング、30メートル走、着座位置からお尻歩きやほふく前進によるビーチフラッグス、紙コップ踏み潰しなど、正しく早く走るコツを習得するための運動を体験した。参加者は小学校2年生から6年生まで幅広い年齢層であったが、適宜休憩を入れながら、1時間半にわたり体を動かし、真剣に取り組む姿が見られた。

さらに、保護者も20数名が見学を訪れ、本事業に対する関心が高いことが分かった。

③ 地域会場のスポーツ教室の開催状況

地域会場の2体育館において、西宮スポーツセンターの指導によるスポーツ教室を各3回開催した。(各会場とも17:15～18:45の時間帯で開催)

会場	日時	指導内容
中央体育館分館	①12月11日	体操(開脚前転、側転、跳び箱)
	②1月8日	クォーターテニス
	③2月12日	バレーボール
北夙川体育館	①12月14日	体操(開脚前転、側転、跳び箱)
	②1月11日	バスケットボール
	③2月8日	バレーボール

④ 多種目体験会(2月16日)の実施状況

大学中央キャンパスの体育館において「キッズスポーツパーク武庫女」の多種目体験会を開催した。当日は、小学1年生から6年生までの参加者約40人が、学生やコーチの指導の下、バスケットボール、ハンドボール、新体操、体操の4種目を体験した。

まず初めに次の3つのコオディネーショントレーニングを行い、各自の運動能力を測定した。

コオディネーショントレーニングの内容

① ドロップジャンプ	高く跳べるかを測定。跳躍力を高めるなどに役立つ。(写真1)
② ミニハードル走	短い時間でどれだけ早く走れるかを測定。サッカー・野球などの瞬発力に役立つ。
③ バランス	安定性の悪い円盤型のバランスボールに乗り、バランス力を測定。バランスを高めることはすべてのスポーツで非常に重要。

これら3つの測定を通し、成長期の子どもたちに今後高める能力として何が必要かを明確にし、将来のスポーツの向上に役立てる。

このトレーニングの後、参加者は2班に分かれて、バスケットボール、ハンドボール、新体操、体操の4種目を体験した(写真2・3・4・5)。

体験会終了後、参加者にはアンケートに回答してもらい、多くの方に満足していただくことができた(12頁～13頁参照)。

多目体験会開催の様子



写真1 ドロップジャンプ



写真2 ハンドボールの体験



写真3 新体操(リボン)の体験



写真4 バスケットボールの体験



(左) 写真5 体操の体験

## ⑤ 参加者アンケート

### ⑤-1 受講しようと思った理由

	2年	3年	4年	5年	6年	計
1. 健康や体力づくりのため	1	5	3	1		10 (29.4%)
2. 情報交換や仲間づくりのため						0 (0%)
3. 興味があり、楽しそうだった	2	6	5	1	2	16 (47.1%)
4. 家族・知人・友人の紹介			1	1	2	4 (11.8%)
5. 通いやすい体育館だった		1			2	3 (9%)
6. 大学が実施するから			1			1 (2.9%)

### ⑤-2 開講式（11月25日開催）の満足度

	2年	3年	4年	5年	6年	計
1. 満足	2	5	5	0	3	15 (78.9%)
2. 普通	0	0	1	2	0	3 (15.8%)
3. 不満	0	0	0	0	0	0 (0%)
					未回答	1 (5.3%)

### ⑤-3 地域会場のスポーツ教室の満足度

	2年	3年	4年	5年	6年	計
1. 満足	0	6	6	1	3	16 (84.2%)
2. 普通	0	0	0	1	0	1 (5.3%)
3. 不満	0	0	0	0	0	0 (0%)
					未回答	2 (10.5%)

### ⑤-4 多項目体験会（2月16日開催）の満足度

	2年	3年	4年	5年	6年	計
1. 満足	2	6	6	1	2	17 (89.5%)
2. 普通	0	0	0	1	1	2 (10.5%)
3. 不満	0	0	0	0	0	0 (0%)
					未回答	0 (0%)

他に体験したかった種目は、体操(2)、ハンドボール、バトントワリング、フットサル、走り方、鉄棒、サッカー、ドッジボール、バドミントン

⑤-5 今回参加してスポーツへの興味・関心は高くなりましたか？

	2年	3年	4年	5年	6年	計
1. はい	2	6	6	2	3	19 (100%)
2. いいえ	0	0	0	0	0	0 (0%)
					未回答	0 (0%)

⑤-6 これからもスポーツを続けたいですか？

	2年	3年	4年	5年	6年	計
1. はい	2	6	6	2	3	19 (100%)
2. いいえ	0	0	0	0	0	0 (0%)
					未回答	0 (0%)

興味があるスポーツは、バスケットボール(3)、テニス(2)、スイミング、野球、ハンドボール、卓球、剣道、ダンス、バドミントン

⑤-7 武庫川女子大学を訪問した感想

- ・ とても広く、体育館も種目別に分かれていて設備が充実している(5)
- ・ きれいで広い(3)
- ・ 皆さん礼儀正しくて、とてもよい大学だと思った(2)
- ・ 立派だ
- ・ ふだん経験しない種目を体験でき、大変良かった
- ・ 移動が多すぎて疲れた

(8) スポーツ教育の推進事業（応援文化の定着促進）

平成30年11月19日（月）18：00～20：30、関西大学とバスケットボール親善試合を開催した。ホームゲームとして、場所は武庫川女子大学中央キャンパス 第1体育館4階コートで実施した。この親善試合は一般学生および地域住民の来場を期待し実施したもので、そのため、一般学生のスポーツに対する興味や関心を高めるため、事前に応援Tシャツデザインコンテストを実施し、最優秀賞に輝いた学生デザインのTシャツを500枚作成し、当日の関係者や来場者に配布した（写真1）。また、当該会場は観客席が少ないため、仮設観覧席（168席）を設置した（写真2）。両校選手を掲載したポスター100枚、チラシ5,000枚を作成し、両校において各々半数のポスター、チラシを広報宣伝に活用した。

また、当日はバスケットボールを初めて観戦する一般学生なども楽しめるよう、音響操作により攻守をわかりやすくしたり、会場を盛り上げるBGMを流したりと工夫を凝らした。

これにより、本学学生・教職員だけでなく、対戦校の学生・保護者・教職員の方々、さらには地域住民を含め、300名を超える来場者を迎えることができ、本学における応援文化の定着と近隣大学とのスポーツ交流文化を促進することができた。

さらに、このホームゲームの開催以降、バスケットボール部以外でも本学運動部が出場する近隣での試合への応援参加を継続して促進した。12月3日（月）の大阪体育大学とのバスケットボール親善試合（アウェイゲーム）、12月8日（土）タッチフットボール東西王座決定戦においても、各々の試合の来場者に応援Tシャツを配布した（写真4・5）。出場する選手をはじめ、応援ツアーを企画する学生や応援ツアーに参加する学生、保護者や卒業生が、皆同じ応援Tシャツを着て、一体となって応援することができ、応援文化をより深めることができた。

#### スポーツ教育の推進事業（応援文化の定着促進）



写真1 オリジナル応援Tシャツ

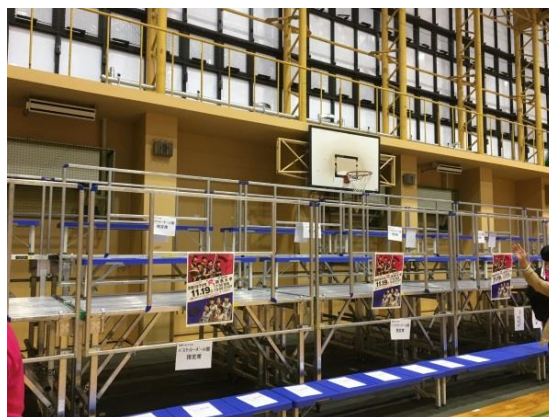


写真2 仮設観客席



(左) 写真3 ホームゲーム開催告知ポスター



写真4 アウェイゲームでの応援の様子



写真 5 東西王座決定戦での応援の様子

以 上